
麻生リトル・ラグーメン



神奈川県川崎市

麻生ラグビースクール

『24年度』一年間有難うございました!!

校長 三浦 幸宏

24年度も早いもので最終号となり、一年間を振り返ると今年度も色々な事が思い出されます。総会でご承認を頂いた事業計画も皆様のお陰をもちました予定通りに終了することが出来た事をまずは報告させていただきます。

小学部の県大会では今年度年頭に掲げた『強い麻生RSの復活』のスローガン通り、以前から目標としている6年生での優勝を2チームとも成し遂げてくれました。4年生もB・Cの2チームが優勝し良い成績を収めてくれました。3年生も5年生もまだまだこれからが楽しみな学年ですので来年に期待します。

6年生、県大会の横須賀市RSとファイナルカップの岩手県北上RSの2試合は君達が全力を出して戦った事が感じられる試合でした。本当に素晴らしい試合でした、感激しました。この試合を通して、君達自身が一番よく解ったのではないのでしょうか、『やれば出来るという事を！』、私達コーチは君達の戦う姿を見て『勇気と元気』を頂きました。ありがとう！

中学部はDAGSに独立して3年目となりました。今抱えている問題は2年生・3年生と上がるにつれて辞める子が多くなる事です。どうしても中学の部活の為にDAGSでの活動と両立出来なくなり辞めてしまう事です。いかに3年生までラグビーを続けさせるかが今後の課題となります。

中学部・小学部卒業する君達へ、これから長い人生の君達には麻生ラグビースクールでラグビーを通して学んだ、スポーツの素晴らしさ・集団行動・思いやり・優しさ・礼儀・忍耐・助け合い等を学んだ時間や経験は財産です。夏合宿の事が一番思い出に残る事でしょう。あの厳しい練習に耐えることが出来た事、素晴らしい事です。必ず役に立ちます。『自信と誇りと勇気』を持ち麻生RS出身者として胸を張って下さい。君たちの活躍を楽しみにしています。校長もグラウンドでまだまだ頑張ります！

日本大学との関わりですが、日本大学稲城グラウンドで練習が出来るようになって早や6年が過ぎ、学生との交流・日大フェスティバル参加やトン汁サービス・秩父宮での最終戦大応援団・ラグビー一部の納会等に参加して絆がより一層深まっている事を報告させていただきます。

さて、最後に今年度の反省として、骨折事故(脛の骨2本骨折)による長期入院を強いられた子供を出してしまった事です。34年近く活動して来た中で多少の骨折事故はありましたが、この様な大きな事故は今回が初めての事です。幸いにもグラウンドでの応急処置がよかった事で手術が不要となり骨折部分を正確に位置付けして固定する処置が取られました。この骨折事故とは別に手の指の骨折や捻挫と打撲、成長痛に伴う症状、昨年に引き続き腰骨の疲労骨折と度重なる怪我が続発しています。生活習慣が違ってきている為か下半身が弱く、倒れ方も慣れていない様な気がします。このような状況を踏まえ今後の指導方法を考えて行きます。又、定期的に実施している熱中症や脳震盪の予防の研修に加え骨折等の応急処置やAEDの使用方法も全コーチが共有できる様に指導していきます。

次年度も『次代を背負う若者づくり』に皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

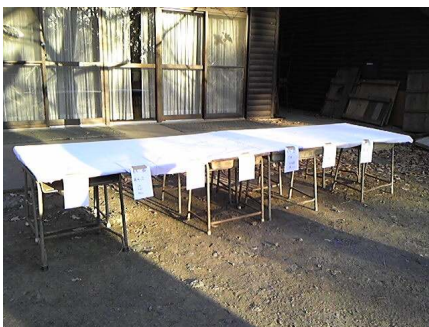
平成24年度のまとめ

幹事長 加賀 司

3/17の大和RS練習試合を行い、3/24の卒業式を残して、全ての行事が終わります。
麻生ラグビースクールの役員・コーチの方やご父母の皆さんの多大なご協力を頂き、無事に1年間を終えることができることに感謝いたします。どうもご苦労様でした。そしてありがとうございました。

- ・今年度を振り返りますと4月以降に入校した生徒は8人と昨年の23人から激減です。
今後の募集活動に課題を残しました。しかし平成25年4月には幼稚園で5人が入校予定です。
 - ・幼児：東海林ケント君の1人
 - ・年中：福岡リョウ、千秋ハヤト君の2人
 - ・1年：本田ショウタロウ、川原リョウヘイ、諸田アキヒコ君の3人
 - ・3年：鴨志田アユム君の1人
 - ・5年：小俣レイマ君の1人
 - ・中学1年：小作、梅津、亀田、山本、佐々木兄弟、白川、エラガ君が進級しました。
- ・新人コーチは芝田、田中、東海林、實方、角田さんの5人でした。
また、3月末で退任されたコーチは斎藤次雄さんです。
長い間ご指導頂き、ありがとうございました。
- ・ジャージ類の販売については今までスクールとして一括購入していましたが、今年度の途中から横浜RSや田園RSなどが利用している「シンコースポーツ」に個別注文する方式に変更しました。
- ・これを機会にジャージは今までの赤紺から柿色と赤紺のリバーシブルタイプに変更し、背番号と名前も印刷されるものに変更されました。
- ・1月6日に行われた恒例のもちつき大会は6年父母による前日からの仕込みにより、もち以外にピザと綿菓子なども振る舞われ、子供たち以上に大人にも好評でした。下記写真をご参照下さい。
- ・昨年検証した土曜日練習については3年生～6年生を中心に毎月2回フリースクールとして自由練習を行い、全学年での基礎体力の練習や学年又は2学年での練習などを実施しました。
- ・練習でのケガでは、3年生で足の骨折があり、救急車で搬送される事態になりましたが、その時の対応を基に「救急」と言う冊子を6年横島ママに作成していただき、全コーチに配布しました。

「平成25年1月5日 餅つき大会の準備状況」



贈る言葉

技術担当 大森 昇

卒業(中学部)、修了(小学部)おめでとうございます。

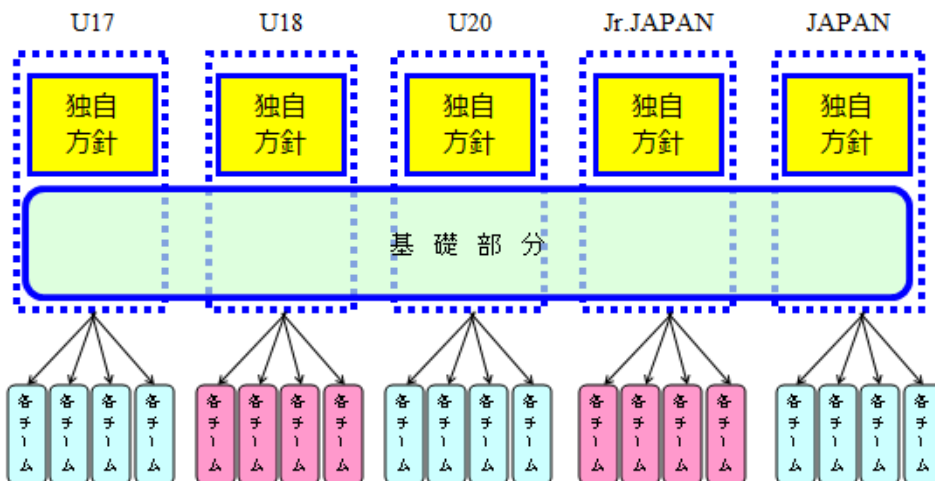
ラグビーを続ける人も、何かを始める人も、4月からは、新しいステージが皆さんを待っています。

ここでは、ラグビーを続ける人のための話を2つして、「贈る言葉」とします。

1つは、いままで身に付けてきた「麻生のラグビー」に自信を持って、次のステージに進んで欲しい、ということです。

これまでは、中学⇒高校⇒大学⇒社会人の世代間において、チームや学校によって指導方針を別々に進化させていたため、新しいステージに進んだプレイヤーが新チームで、これまで培ってきたプレーを否定されたり、評価されず戸惑う場面が少なからずありました。

2019年のワールドカップ日本開催の決定以降、この状況を是正する動きが強まり、日本協会の働きかけでこの「指導方針バラバラ状態」は大きく改善し、各世代の指導内容の「基礎部分」は共通化が進んでいます。



【基礎部分の共有イメージ】

麻生ラグビースクールでは、この基礎部分を大切に考え、各学年を通じて共通に指導しています。独自の戦略・戦術についてもオーソドックスな、基礎部分に影響しないように配慮しています。みなさんは、基礎部分を正しく、しっかりと身に付けているので、新しいステージでも今まで習ってきたことに自信と誇りを持って、挑んで欲しいと思います。

2つめは、いくらラグビーが好きでも、ラグビーだけやっていたのでは、上手くならない&勝てない、ということです。

外国人コーチ、プレイヤーやレフリーとコミュニケーションをとるための語学(英語)は勿論ですが、「A=B、B=Cならば、A=C」のような数学的なロジカルな思考もルールや戦術を読み解く上で大切です。

物理が分からないと、キックが最もよく飛ぶ角度や、コンタクト時の衝撃Fは質量mと加速度aの積に比例することも分かりません。

身体を大きく成長させるノウハウや、ケガを効率的に防止・回復させるための生物、保健体育の知識は普段の生活にも役立つそうです。

さまざまな文化や思想、歴史を学ぶことは、ラグビーの本質「フェアに戦う」ことを理解するために欠かせません。

何より、「学業成績を上げるためのプロセス」(他人に頼らず、自分で緻密に分析して、練り上げた計画を作り、そのとおりに実行する)は、そのまま「ラグビーが上手くなるプロセス」に活かすことができます。

学業とラグビー(＋部活)を両立させるには、かなり忙しい毎日を送ることが求められます。遊びやゲームの誘惑に負けないように、毎日の生活を正しく過ごすことがポイントになります。さらに次のステージに進むときに、「更なる高み」をつかめるように努力して下さい。

考えが変われば意識が変わる。

意識が変われば行動が変わる。

行動が変われば習慣が変わる。

習慣が変われば人格が変わる。

人格が変われば運命が変わる。

運命が変われば人生が変わる。 (野村克也)

中学生



2012 年度卒業生

左上段 嘉数泰盛 富田嶺央 安井誠 菅原優汰

左下段 棚橋耕太郎 西村壮平 渡辺海人 木下元太 石田楽人

“卒業”

DAGS コーチ 小坂頼史

3年生の諸君、そして御父母の皆様 ご卒業おめでとうございます。新生ダックス(グリーン、麻生2チーム合同)になってから第3期卒業生です。

今年は3年生が少なくて県大会は本当に厳しい戦いでした。大会の最終戦では前日まで人数がそろわず棄権試合となるのでは・・・心配の中での県大会予選も棄権もなくてことができました。

結果は6位・・・目標の優勝には全然届きませんでした。しかし、卒業試合では、1年生の時に辞めた安井誠君、富田レオ君が参加してくれて、試合には負けはしましたが、“絆”が実感でき、なんかとってもいい感じで卒業式ができました。

ご父母の皆様、3年間ありがとうございました。夏合宿にも参加してお手伝いしていただきまして感謝しております。この場を借りてお礼を申し上げます。

これからも機会があれば日曜日にグラウンドへ足を運んで一緒に汗を流しましょう。

中学3年間積み重ねた経験を生かし、①チームの中で“今自分に出来ること”を精一杯やる、②感謝の気持ちを忘れず、③何事にも情熱を持ってチャレンジして欲しいと思います。卒業してもグラウンドに来て後輩の指導もお願いします。

DAGS 卒業 高校進学おめでとうございます。

コーチ 教村 政司

体の成長と精神的なバランスの取り辛いこの時期に逞しく成長してくれた事うれしく思います。

毎週の練習、夏合宿 よく耐えた 人生で一番耐えた3年間かも……？

しかし一番成長した時と思う

一生 仲間と思い出を大切に これからの楽しく辛い人生歩んで下さい。

素晴らしく成長した子供たち誇らしいご父兄の皆様おめでとうございます。

力不足のスタッフを応援頂け ありがとうございます。

「卒業」

DAGS コーチ 三沢

元太、泰盛 卒業おめでとう！

小学 6 年の時から色々あったけど、よく続けたね！ この 4 年間、経験し感じた事は必ず君たちの財産になる！ 何年か経って振り返った時に解るよ！ どんな言葉であれ、君たちに声をかけてくれた方々に感謝の気持ちを忘れないで下さい(今は無理でも！)。

そして、素人で何も教えられなかった事を詫びると共に、未来のトップリーガーにエールを贈ります。最後に尊敬するラグビープレイヤーだけは間違わないように！

9年間の月日

DAGS コーチ 小松 正己

DAGS3年生諸君卒業おめでとう。父母のみなさま子供たちを暖かく見守りいただきながら、スクール運営にご協力頂き無事に卒業の日を迎えることができありがとうございます。これでスクールの全ての行事が終わります。小学校から中学の9年間子供たちと毎週日曜日の朝の4時間の付き合いをさせていただきました。ラグビーを通じ子供たちが成長できればと思いながら子供たちはどうだったのかとの思いが頭をよぎります。

中学ではグリーンラグビースクールとの合同で DAGS として活動をしてきました。他の学校の子供たちとの関係もでき高校に入ってからでも財産になるでしょう。

神奈川スクール選抜が花園に出場しましたので初めて花園ラグビー場に行きました。全国大会の舞台上で活躍する姿を見ることができるのもコーチ冥利につきることと子供たちに感謝しております。

これからも、それぞれの進路での飛躍をしてくれることと思います。

高校に入ってからでも DAGS の練習を見に来てください。そして練習の手伝いをしてください。卒業するに当たり、君たちはもう大人です。今まで以上に行動範囲は広くなり自由な部分が増えてきます。責任も大きくなるでしょう。ラグビーを通じて培った精神は財産です。いつまでの大切にしてください。

「DAGS 卒業を迎えて」

中学3年 木下元太

僕は3年間DAGSに通って本当によかったです。なぜなら選抜にも選ばれてラグビーのある学校にも進学することができたからです。

また、毎週の日曜日がとても楽しみでした。これからともラグビーの強い学校に行くので今よりもっと努力してラグビーを楽しくできたらいいなと思っています。

あと大きな目標もできました。それは日本代表になることです。これからもこの目標に向かって頑張りたいと思います。

3年間本当にありがとうございました。

思い出と抱負

中学3年生 嘉数泰盛

僕は、中学の部活動で2年から顧問に球拾いしか、させてもらえない僕だけ別メニューで、ラグビーをやっているヤツは嫌いだと言われ、僕にそう言った顧問を見返してやるには、ラグビーで神奈川県スクール選抜に選ばれることだと思い自分なりに努力をしていました。でも、入院や骨折をしてしまいその時ほど「ラグビーを辞めたい」と初めて思いました。自分の気持ちもコントロールできず親にも当たり迷惑をかけました。でも、中学3年になり最後の神奈川県スクール選抜、僕は僕なりに努力をし、結果A32のメンバーに入ることができて最高に嬉しかったです！また、更に22名に絞られるので気を抜くことはできなかったです。東日本大会にメンバー入りできましたが、全国大会メンバー入りはできなかったのも、僕は監督との面談で納得いかない思いをぶつけました。でも、自分のスクール選抜が3位になって嬉しかったのと、広島スクール選抜と試合の後メンバーが応援に行った僕を胴上げしてくれた

ので、忘れられない最高の思い出になりました。僕は、麻生ラグビースクールと神奈川DAGSを卒業します。沢山のコーチが僕を指導応援してくれました。感謝の気持ちを忘れずに、高校で全国大会花園へ出場できるように頑張りたいです。

卒業

中学3年 棚橋耕太郎

3年生の先輩方、ご卒業おめでとうございます。
僕は麻生ラグビースクールに入ったのが小学3年でした。
それから6年間、今まで続けてこられたのも、仲間やコーチの方々のおかげです。ありがとうございました。僕はラグビーは上手ではないけど、ラグビーは好きです。なので高校に入学してもラグビー部に入部します。
中学の時よりも練習がきつくなると思うので走り込みや筋トレをして頑張っついていきたいと思います。最後に、麻生ラグビースクールのコーチ、DAGSのコーチ、ご指導ありがとうございました。

今年の目標

DAGS 2年 梅津 誉

今年、僕は中学3年生として、いつでもチームを引っ張っていける3年生になりたいです。そのためには、毎回の練習を集中して取り組み、声をしっかり出し、1、2年がしっかりとついて来てくれるように良い見本として頑張ります。また昨年果たせなかった県大会優勝の目標を果たせるように、今よりももっとチーム内でコミュニケーションをとり、悪い点をお互い改善していき、強いチームになっていきます。
もっともっと声を出して元気にプレーします。
3年生の先輩方、ご卒業おめでとうございます。いろいろ教えてくれてありがとうございました。練習を見に来てください。

「卒業おめでとうございます」

中学2年 曾我鷹平

僕は、あまり練習には参加できませんでしたが、3年生の方々のラグビーに対する熱意や、一生懸命な姿勢を感じることができ、とても良い経験になりました。
高校でも、活躍なさってください。

“卒業”

中学1年 小作航平

DAGS の練習を途中で休むことになってしまい、すみません。
まだしばらくは休むことになってしまったけど、みんな、練習・試合、頑張ってください。
僕も早く治るように頑張っ、一緒に練習できるようになりたいと思います。

今年の目標

DAGS 1年 梅津 暁

今年からフォワードになったので、卒業した3年生のように強い当たりや、正確なスローができるように、まずはしっかりとした体力を付け、声を出し、仲間とのコミュニケーションをとりミス減らして、県大会で良い結果が出せるように頑張ります。まだまだフォワードは勉強中ですが、気持ちでは負けないようにします。3年生の先輩方、ご卒業おめでとうございます。

“卒業”

中学3年 棚橋耕太郎の母 棚橋 円

あっという間の6年間でした。
いつ「辞めたい」と言い出すのかと思っていましたが6年間、一度も「辞める」と言い出す事はありませんでした。

息子は決して運動神経が良いわけではないですが6年間続けられたのもコーチの方々、お友達の支えのおかげと感謝致します。
お世話になりました。ありがとうございました。

☆☆☆感謝☆☆☆

中学3年 泰盛の母さゆり

麻生ラグビースクールに、次男泰盛が入校したのは幼稚園の年長でした。当初は、牧野くん小島くん泰盛のたった三人で川村コーチが指導して下さいました。小学校1年生から6年生まで小松コーチに指導していただき、DAGS3年間もお世話になりました。また、DAGSの校長小坂コーチには長男盛貴・次男泰盛と二人の息子がお世話になりました。入校することで、人見知り解消と地元以外に友達を作ること、週末も規則正しく朝早く起きて炎天下のなかスポーツをすること、そして何より親以外の大人コーチの皆様に、誉められ怒られながら育つ息子たちを見ていくことがとても嬉しくて、泰盛はここまでラグビーを好きになってくれました。泰盛に関しては、中学3

年間とても濃いものとなり、成長していく中で苦しいこと楽しいことが入り交じった経験をさせていただきました。また、親として苦しいときに何をしてあげられるのか…考えさせられた時間でもありました。骨折をした時は骨に良いと聞けば「酸素カプセル・コラーゲン・温泉治療・リハビリ・マインソール・食事」と、選抜に間に合うようにサポートしてきましたが結果は落選。落ち込んだ息子が立ち上がってくれるよう、サッカーや野球選手たちの裏側という番組を録画し何気なくTVを付けてみたり、最終的には息子本人が乗り越えてくれるしかないの、親は見ているだけでした。様々な思いがあり言葉が出てきませんが、そうやって親も親になれた気がします。毎年通っていた菅平合宿も、高校でラグビーを続けてくれるのでまだまだ通えそうです。息子たちには、三浦校長初め沢山のコーチ・沢山の先輩・沢山の仲間ができました。ここまで育てていただきまして本当に「感謝の気持ち」で一杯です。

ありがとうございました m(_)mm(_)mm(_)m(T_T)

卒業生へ

あの日描いた夢はいつだって僕たちを待ってる

目を逸らさないで人のせいにならないで自分を信じ前だけを見てそう進んでいこう

胸の中詰め込んだ希望とそして消えない情熱を持ち続けた人にだけチャンスはやってくるはず

果てしない道のりを見失いそうになるけど 一番大切なのは「今」を精一杯に生きることさ 思い描く未来

はいつだって 今と繋がってる 無くさないで見落とさないで 小さな幸せ

by ファンキーモンキーベイビーズ 「夢」より



6年生



(前列左から)

・濱田透唯・萩原睦・井上謙亮・西野響太・野川真・大坪勇太・中司大也・宮澤朋輝・横島拓朗

(後列左から)

・大竹竜矢・伊藤大吉・大森公乃祐・安井健太・菅原健人・佐藤公亮・寺田大起・斎藤裕太・安藤慎吾
・真山巧也・川原奨平

「卒業おめでとう！」

6年生 チーフコーチ 小作 紀昭

6年前、「小作～！ツベコベ言わず・・・はい！と言え！」三浦校長から君達のチーフコーチの要請があつて、この学年が始まりました。

プレーヤーの経験がなかった自分がラグビーのチーフ？心配した覚えがあります。

何度も心が折れそうな時間がありましたが、こうして小学部の卒業を見送れることは、ご父兄、コーチの皆さんの協力があつてグラウンドに立たせて頂けました。(本当に有り難うございました。)

君達が1年生となった時、三浦校長の尽力で日大稲城グラウンドが使用できるようになり、恵まれた練習環境に一変したことを良く覚えています。(それまでは王小、ふるさと公園で練習しました。)

新学年をスタートした頃には10名、1年生の終わり頃には18名に増えました。

低学年は5人制の試合なので、3チームに分けて、よく競い合つて？(じゃれ合つて)いましたね！

5年生までの3年間の県大会では毎年「優勝～」と叫びながらの麻生の定位置はいつも準優勝！立派な成績ですが・・・優勝しなかった(泣)！←皆の言葉でした。(勝たせてあげられずにごめん。)

ついに今年の県大会では、対戦相手にも恵まれもしましたが、麻生RS始まって以来、初の2チームエントリーで両チームが全勝優勝(県大会号にも書きました。)加えてファイナルカップは初のカップ戦(リーグ戦トップ通過)に出場。強豪の北上RS(岩手)に一歩及びみませんでした。が”やり切る試合”ができたんだと感じています。(負けた時の悔しかった思い→技術がどうこうではなく、勝ちたいと思って本気で戦えたこと・・・だと思っています。)

卒業記念の額に添えた言葉は・・・「一生懸命頑張れば、夢は必ず目標に変わる。」です。

この言葉、実はNYYのイチョー選手の言葉です。

「こんなの夢のまた夢〜！」だと思っていることも一生懸命努力していると現実(目標)に変わると言う言葉です。

でも…目標なのでまだ達成ではありません。そこからもう一つ掴むには”もう一つの何か”が必要なんだと思います。

また…目標を掴むチャンスは1回きりではありません。諦めなければ何度でも挑戦できます。

イロー選手は「夢」のジャージャーになることに向かって努力し、何度も失敗しながらも夢を目標に変え、“もう一つの何か”で掴んだんだと思います。

6年間、その辺のスポーツよりも厳しい練習。ここまで進んで来た君たちなら、これから先は何かにつづつ失敗しても、乗り越えられます。自分を信じ、自信をもって、これからも頑張ってください。

最後に…

ラグビー生活で身体も気持ちも強くなれたのは君たち自身の努力があつてこそ！

それは勿論だけど…グラウンドに送り出して、いつも君たちを応援してくれたお父さん、お母さんに感謝の言葉を伝えてください。

一言で良い。「有り難うございました。」を伝えてください。

言われたお父さん、お母さん、伝えた君たちは皆、幸せになります。

「卒業おめでとう！6年生」

6年生コーチ 山中 淳郎

6年生の皆さん、ご卒業誠におめでとうございます。

コーチはみんなが2年生の1月から担当しましたので、4年間を共にグラウンドで過ごしたことになります。出会ったころのみんなは、練習が大好きでほとんど練習を休まないし、グラウンドに来るなりラグビーボールで遊び始めるし、本当にラグビーが、仲間が大好きなんだな〜と感じたことを憶えています。そういえばその頃はいつも練習で一列に並んでヒザ付きタックルをやっていましたよね！今、小さかったみんなの事を思い出してとても懐かしいです。

ラグビー大好きが数多く集まった学年でしたので、毎年の県大会でもいつも優勝が狙える学年として期待されていました。そして6年生で見事に2チームとも優勝という快挙！を達成しましたのはまだまだ記憶に新しいですね。8月にコーチが県大会の抽選くじを引いた時から2チーム同時優勝の期待がありました。それを見事にやり遂げたことは一人ひとりの勝ちたいという気持ち+チームワークのお陰だったと思います。コーチは、みんなにはラグビーでももちろん上手になってもらいたいけど、ラグビーというスポーツを通じて『仲間を思いやる気持ち』を学んでもらいたいと思ってきました。県大会での藤沢戦や横須賀戦はまさに仲間のためにひとりひとりが自分のやるべきことをきちっと出来たから大きな勝利をもぎ取れたんだと思います。

そしてクライマックスはファイナルカップ。北上戦は、ここまでやれるんだという驚嘆の集中力と体力とチームワークで最高の試合を見せてくれました。まさに“麻生RSここにあり！”を県内外に示した素晴らしい試合でした。ベンチサイドで応援していた選手も含めてあの時間は全員が間違いなく一つになっていました。悔しかったと思うけど、出し切ったという気持ち良さも感じたんじゃないでしょうか。

さあ卒業です。これからは中学に上がり、みんなの未来は自分次第で無限に広がっていきます。麻生RSで経験したことは全てみんなのベースとなっているはず。ラグビーを続ける子もそうでない子も自信を持って何にでも挑戦していきましょう。麻生RSでやり遂げたみんななら必ず途中で投げ出すこと無く、またやり遂げてくれると信じていますので。

これからも応援しているぞ、6年生！

「リトルラグーマンになった君達」

6年生コーチ 重住 英彰

3年前に初めて菅平の夏合宿に参加した頃は遠足気分が盛り上がり、とてもラグビーどころではありませんでした。そんな君達 20 人は赤と紺に分かれて対外試合より激しく互いに競い合い、6年生の夏合宿ではすっかり逞しくなりました。

しかし本当に目付きが変わったのは県大会の直前でした。赤紺いずれも FW が激しく当たって BK に生きたボールを提供する展開ラグビーに目覚め、全員が自分の持ち場の責任を全うし、チームとしての力を発揮しました。

この自信が県大会の各試合に生かされ、いく度もピンチを耐え抜いて劇的な試合展開で勝ち続け、ついに奇跡のような赤紺双方優勝を成し遂げました。

ここまででも凄いのだが、君達はファイナルカップに向けて、今度は20人が一丸となって、より強いチームを目指しました。そして予選を危なげなく勝ち抜け、麻生 RS 初めてのカップ戦出場を実現しました。

決勝トーナメントでは、全員がこれまでで最高のプレーを発揮し、より激しく当たり、より強く押し合い、より速く競い、小学生としてのラグビーを極め観客を魅了しました。

各人が自分に厳しく、同時に仲間には優しく接し、自らの力でチームとしての達成感を掴みました。まさに小さなラグーマンの集団です。

中学生になったら、より高い志を抱いて新たな目標に邁進してください。君達なら出来る。素晴らしいリトルラグーマンだから！

「本当に楽しかった」

6年生コーチ 武井 智之

4年生の君たちと出会ってからの3年間は本当に楽しかった。赤と紺チームが同じようにかっこいいラグビーができるようにそして強くなったなー

コーチ達は君たちの試合をそして成長を見るのが本当に楽しみでした。

中学生になっていろいろなスポーツそれに仲間と出会うと思うけれど、麻生の仲間はきっとベストフレンドだと思うよ。

8年後に再会して皆とお酒を飲めることを楽しみにしています

本当に楽しませてくれてありがとう。

「麻生ラグビースクール小学部卒業おめでとう」

6年生コーチ 毛利 昌康

県大会優勝し、ファイナルカップでは感動を与える試合を見せてくれた君たちは、全員すばらしい成長を遂げた。ここで得られた貴重な経験は一生の大切な財産になるはずだ。今後、ラグビーを続けるにせよ、そうでないにせよ、ここで学んだことを思い出して成長、前進してください。これからの日本、および世界は、過去50年間と比べ争いの多い時代になって行きそうだが、しかし、仲間のためにがんばった君たちの精神が、次の明るい社会を作る基盤になっていくはずだ。将来、君たちがこのラグビーの精神で、さらに成長し、それぞれのポジションで日本を背負っていくことを期待したい。そして、たまにはこのラグビースクールに顔を出してください。元気な顔を見せてくれるのもよし、落ち込んだときに相談に来たり、癒しを求めてくるのもよし、これからも君たちと合えることはコーチの喜びであります。

「これからも続く、真の仲間を大切に」

6年生コーチ 宇田 洸希

6年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

私の話で申し訳ないのですが、私が将来の夢を意識し始めたのが、ちょうど今の皆さんくらいの頃でした。当時は何となくでしたが、今は現実的になってきました。皆さんは今、どんなことを考えていますか？

今年は、その夢に向かって勉強する1年でした。楽しいことが多いのですが、どうしようもなく、もう辞めちゃおうかなと思うこともたくさんありました。そんな時に力になってくれたのが、研修の仲間でした。

「仲間」とは少し難しい言葉ですよ。クラスのお友達と麻生RSのメンバーは同じ「仲間」ですが、本当に同じくらいでしょうか。共に汗を流し、一緒に苦しみ、共に喜んだ麻生の仲間はきっと大切な存在ではありませんか？また私の話になってしまいますが、私のアルバイト先にこれまた偶然麻生RSと一緒にプレーした仲間がいます。こんなことあるんだなと思いますが、彼はやはり他のバイト仲間とは少し違う存在になります。「あうんの呼吸」という言葉がありますが、彼と働いているとあまり仕事の話をしなくても進むのです。関係ない話はたくさんしちゃいますが…

私は思うのですが、真の仲間とは、どんな時も支え合える存在であり、また言葉を発しなくても伝わるものがある。そんな存在ではないでしょうか。これら先、真の仲間となる人たちとたくさん出会うでしょう。その人たちを大切にしてください。そして、多くの人から真の仲間と呼ばれるような人になってください。

少し難しい話をしてみましたね。簡単にまとめるところです。

「麻生で出会った仲間は一生続く仲間です。大切にしてください！！」

卒業おめでとう

6年コーチ 向野@インドネシア

君たちのコーチになったのは君たちが4年生の時、第一印象は、みんな仲が良く、ラグビーが好き、でも集中力はいまいち(笑)でした。ただし、ラグビーのスキルは皆が高く、又みんなが自分のラグビーに対して自信を持っていましたね。そんな4年生の県大会は、個々人の力勝負となり敗退。

少しずつチームとして戦う意識が出始めたのが5年生でしたね。相変わらずラグビーのスキルは高かったですが、チームは最後のフィニッシャーにボールを集めることに意識がいついてしまい、これまた期待された県大会は敗退。

そして最終学年の6年生！ と思っていたら、転勤…
本当に残念でなりませんでした。

いつもいつもパソコンのビデオでみんなの活躍を見ていました。そんな君たちを久しぶりに見たのは、県大会の横須賀戦。まさにチームのみんなで戦う素晴らしいチームになっていました。その変わりように驚くとともに、みんなの成長した姿がうれしかったです。そして、2チームともに優勝。本当に素晴らしい結果です。

これはみんなの意識の高さと、なにより強くなりたい、うまくなりたいという気持ち、そしてそのための努力の賜物でしょう。

中学に行ってもラグビーを続ける人、別の道に進む人、それぞれでしょう。コーチは、何に進むにしても、この麻生で経験したことを思い出して生かしてほしいと思います。この経験は必ず将来役に立ちます。何か辛いことがあった時には、ぜひコの字ダッシュのことをぜひ合宿でのランパスのことを思い出してくださいね。

中学は3年、高校も3年、大学は4年です。是非この10年間の間に、失敗を恐れずもっともっといろいろなことにチャレンジしてほしいと思います。ラグビー以外のいろいろなことに興味を持ち、いろいろなことを経験してほしいと思います。

麻生のコーチ、一緒に戦った仲間は一生の仲間です。卒業してバラバラになりますが、何かあればいつでも連絡をください。(ちょっと遠いのですが)

そして、またいつか街で会った時には一回りも二回りも大きくなった君たちに会えるのを楽しみにしています。

ほんとうに卒業おめでとう。

6年生 安藤慎吾

ぼくがこれまで一番印象に残っているのは、菅平での合宿です。今年は部屋の班長も務めました。部屋のみなをまとめるのは大変だったし、練習はとてつらかったです。けれど、練習に集中して取り組むことができたし、バーベキューや花火大会はとて楽しく、試合ではチームのみんなで一丸となってプレーすることができました。ぼくは菅平の合宿で、技術的にも、精神的にも成長したと感ずることができまし

た。

そして、県大会もファイナルカップも終わって、ぼくも卒業して中学生になります。麻生ラグビースクールでは、三浦校長、コーチの方々、そしてチームのみんなから、たくさんのことを教わりました。中学校では勉強も難しくなり、部活も始まります。中学校でも、麻生ラグビースクールで教わったことを忘れずに、いろんな分野に生かしていきたいです。

「ありがとうございました。」

6年生 伊藤 大吉

僕は、9年間でラグビーが好きになりました。僕がラグビーを好きになれたのは、明るいコーチと親切なご父兄方、そして何よりも一緒にやってきた仲間のおかげです。仲間のおかげでラグビーを頑張れた。

9年間ありがとうございました。中学に行っても経験をいかして頑張ります。

「ラグビーのきおく」

6年生 井上 謙亮

ぼくは3年生の時に入校しました。この4年間の中でもっとも印象に残っているのが初めてボールを持った田園戦です。ラックの横で「パス」と言ってボールもらい少し前へ進んだらもう相手がいる、足首にタックルに入られてしまいおもしろい飛ばされたことです。今まで経験したことの無いしょうげきだったのでびっくりしました。ほかにも、初めてトライを取った時、初めてボールを持ってしっかり相手にあたった時など、印象に残っている場面は数多くあります。麻生ラグビースクールに入って本当に良かったです。今までラグビーを教えてくださいました三浦校長、小作コーチをはじめコーチの皆さんありがとうございました。そしてお父さん、お母さんラグビーに通わせてくれてありがとう。これからもよろしく願います。最後にぼくを支えてくれた大切な仲間ありがとう。とっても楽しかったよ！

「麻生ラグビースクールに入って本当に良かった」

6年生 大竹 竜矢

僕は4年の2月に入校しました。その時は全然体力がなくてみんなに追いつけるか心配だったけどコーチもみんなも優しくしてくれてとても嬉しかったです。分からない事もコーチやみんなにたくさん教えてもらってラグビーの事がだんだんわかるようになって楽しくなりました。合宿やミニ合宿では体力が尽きそうになったけどコーチやみんなが声を掛けてくれたのでやり切る事ができました。

麻生ラグビースクールでの一番の思い出は県大会で全勝優勝出来た事です。みんなで声を掛け合って諦めないで団結したからこそ優勝出来たんだと思います。

ファイルカップでも一番最後に入ったメンバーなのに選抜に選ばれて嬉しかったし絶対頑張ろうと思いました。優勝は出来なくて悔しかったけど、とても良い試合が出来て良かったと思いました。

中学生になってもダックスでラグビーを続けてもっとラグビーが好きになってもっと強くなりたいと思っています。

三浦校長、コーチ、6年生のみんな本当にありがとうございました！

「ラグビーを通して」

6年 大坪 勇太

1年生から始めたラグビー。なんとなく親の勧めで始めてしまったけど正直始めたばかりの時はラグビーが嫌だった。試合に行ってもボールに1回も触れなかったり、練習中も下手クソな僕に対して『勇太は弱い奴』と、みんなが思っている感じがして、毎週モヤモヤしながらラグビーの日を迎えていた。

ある日、僕にとって悔しくて悔しくてたまらない事があった。それから、お父さんと一緒にスゴイ練習した。絶対上手くなってやる！！と思った。

皆みたいにボールを持って走る事がなかなか出来なかったけど、2年生の終わりに初めてトライを決められた。その辺りから、徐々に上達して行った。そしていつの間にか、「特技はラグビーです！！」と、胸を張って言えるようになっていた。

自分にも自信が持てるようになり、若干、根暗キャラだった僕にもラグビーのお陰で人間的に明るい道が開けた。

『努力すれば報われる』と言うことがラグビーで学べた。麻生の後輩達にも、ラグビーを通してこのような事を学んで貰いたい。

僕も、いよいよ中学生になる。この6年間で学んだ事を生かして、これからも頑張っていきたい。そして、もっと辛い事があると思うけど、逃げずに乗り越えていきたい。

「卒業」

6年生 大森 公乃祐

小学部、卒業を迎えて一番思うことは、麻生ラグビースクールでよかった。もし他のスクールだったら、今の仲間にも会えなかったし、たくさんのコーチにも教われなかった。麻生のやり方のAチーム、Bチーム平等に分けるやり方じゃないスクールだったらあまりいい気がしなかったと思います。

小学校1年の終わり頃に入り、約5年間麻生でお世話になりました。毎週の練習はつらくて大変だったけれど楽しかったです。5年間一番うれしかったことは県大会で優勝したことです。3年から5年までの県大会は優勝できなかったです。いつかは優勝したくて、練習も一生けん命やりました。6年最後の県大会で3勝でAチームもBチームも優勝できました。ずっと思い出に残ることだとおもいます。

中学部のDAGSIについてもラグビーを続けてがんばりたいし、もっと自分の技をみがいてうまくなれるようにもっと練習したいです。いままで支えてくださった、コーチのみなさん、チームのみんな、本当にありがとうございました。

「楽しいと思えること」

6年生 齋藤 裕太

6年でFWなって初めてラグビーを楽しいと思った。

特にオーバーで相手をどかせたとき、みんなの力になれていると思ったからだ。

でも、ファイナルカップ最後の試合で負けてしまった。

すごく悔しかった。悔いが残った。正直言うと楽しいとはとても思えなかった。

だからラグビーを続けたいと思った。もう負けたくないから。悔しいと思いたくないから。

中学でも、できたら高校、大学でもラグビーを続けたいと思う。

将来の夢とは違って来るかもしれないけどラグビーを続けたい。

そして後輩たちにもラグビーの楽しさを知って続けて欲しい。

「6年間ありがとうございました」

6年生 佐藤公亮

ボクはラグビーを6年間続けてきて団結力を学んだ気がします。6年過ぎたいま、「もう卒業か」と思っています。このように思うのはだんだんとラグビーが楽しくなってきたからだと思います。ぼくは1年生からラグビーを初めました。初めは連れていかれるままに練習に行っていました。特に三年生から始まった夏合宿はきびしい練習の毎日でした。だけど最終日にはきびしい練習を乗り越えた感動がありました。また、ラグビーの練習や試合を通してチームで戦う大切さを学びました。そのことで、だんだんとラグビーが楽しくなってきたのかなと思います。

ここまで、続けてこられたのもコーチの熱心な指導とみんなからのはげましがあったからです。6年間本当にありがとうございました。

「次のステージへ」

6年生 菅原 健人

ぼくは、いよいよ中学生になります。

もちろん、ラグビーは続けます。

ファイナルカップで負けてしまったけれど、とても良い試合が出来たと思います。
中学生の練習は、今よりきついかも知れないけれど、あきらめずに最後まで頑張ります。
そして、今まで習った事を次に生かしていきたいです。

「卒業に向けて」

6年生 寺田 大起

ぼくは1年の2月にラグビーを始めました。ラグビーで体力が付き、体も大きくなり、始めて良かったと思いました。

僕は受験をしたので、6年の後半は休んでしまいました。受験が終わって練習に復活した時は、みんなと差がついてしまいあせったけど、5年間コーチにみっちり教えてもらっていたのでだんだん「かん」がもどってきました。仲間たちもミスをした時、「ドンマイ」とはげましてくれてがんばれました。

これまでコーチに教えてもらったことをむだにしないよう生かし、ラグビーも中学生生活も充実させるよう努力します。

「ラグビーに感謝！」

6年生 中司 大也

ぼくは、麻生ラグビースクールに出会い、ラグビーを教わった事に感謝している。
ラグビーをしている時がすごく楽しく、ラグビーを大好きにさせてくれた。それは、たくさんのコーチと信頼できる仲間がいてくれたからだ。

5年、6年の時は合宿が終わってからの学校がたいくつで、つまらなかった。麻生の仲間と、一緒にいた時間がぼくにはとても大切だった。試合に負けてくやしかった時、キャプテンとして思うように出来なかった時、けがをした時、大変なこともたくさんあった。

けがをした時、練習が出来ず体がなまってきて、とてもあせりました。
試合に出られること、練習出来ることが当たり前ではないことが分かった。

これからも、もっともっと、がんばって強くて仲間のことをおもえる、ラグーマンになりたいと思います。

長い間ありがとうございました。

「ラグビーを始めて」

6年生 西野 響太

僕がラグビーを始めたきっかけは、お父さんに「ラグビーをやってみれば」と言われたからです。

初めてラグビーをやった時は、「結構、楽しいんだ」と思ったのでやり続けようと思いました。

だけど、ラグビーは楽しい事ばかりではありませんでした。つらい夏合宿や県大会に向けての練習、厳しいコーチの指導などいくつもの困難がありました。でも、チームの仲間がいてくれたおかげで、乗り越えることができたと思います。

3年間、たくさんのコーチやたくさんの大切な仲間と出会うことができ、本当によかったです。

「ラグビーへの気持ち」

6年生 萩原 睦

ぼくはラグビーが好きです。始めたばかりのときは、弟がやりたくて、つられてやっていたのであまり好きじゃありませんでした。でも、やっているうちに少しずつつまくなっていき、トライをしたりタックルをしたりして、相手をとめたりしてトライやタックルがきまったとき、うれしかったです。2年生の11月から今までラグビーをやってこられてうれしいです。中学でもDAGSでラグビーを続けたいです。

今までラグビーを教えてくれたコーチ、続けさせてくれたお父さん、お母さんありがとうございました。

「仲間と過ごした7年間」

6年生 濱田 透唯

僕が麻生ラグビースクールに入校したのは年長の時でした。「ラグビー」ってなんだろうと思いながら、お父さんと通うようになりました。「行きたくない日」もあったけど、何とか7年間続けてこれたのは、コーチやチームメイトのおかげだと思っています。辛い練習もみんなとなら がんばることができました。

仲間の大切さも、学ぶことができました。もうすぐ、僕は「麻生ラグビースクール」を卒業しますが、この7年間の思いでは、決して忘れることはないとおもいます。

「ラグビーを6年間続けて」

6年生 真山巧也

ぼくは6年間ラグビーをやってきて爆笑するぐらい強くなったと思います。最初はつまらないと思っていたけれど、やってみれば面白くてはまりました。一番楽しかったのは試合に出ることです。他のチームと試合をするのが楽しいからです。

「これまでラグビーをやってきて」

6年生 宮澤 朋輝

僕は8年間ラグビーをしました。幼稚園の時は練習がとても楽しかったです。

1年生、2年生の時は練習はあまり楽しくなくなり試合だけが楽しみでした。

3年生になり合宿にも参加してコーチたちにきびしくされて初めて練習がつらいと感じました。

4年生の時は県大会でくやしい思いをしました。

5年生で僕は6年生のファイナルカップに出ることになりました。6年生の練習はとてもつらかったです。

ファイナルカップでは相手がとても大きくて全然、自分の力が出せませんでした。

6年生になり練習もとてもきつくなりました。

6年生の合宿では僕は1日目の午後熱が出て2日目の試合、練習に出れませんでした。そのことがとてもくやしいです。

でも3日目の試合で全力を出せたのでよかったです。

県大会では1試合目、2試合目を勝って、3試合目横須賀線で前半負けていて後半逆転して勝てたというのはすごうれしかったです。

ファイナルカップに向けての練習では毎週きつい練習だったけど、その分ランクアップできたのかなと思います。

ファイナルカップでは予選で全勝しカップ戦に出れたのはうれしかったです。カップ戦の1回戦北上との試合では全力を出し切ったけど負けてしまってとてもくやしかったです。

試合に勝てるようになったのはコーチのお陰です。ありがとうございました。

「小学部卒業」

6年生 横島 拓朗

僕は小学校1年の時からラグビーを始めました。小さい時から思いっきり走るのが好きで、ラグビーはサッカーと違って手でボールを持ってよかったのが入校のきっかけです。低学年の時はひとりで抜けたりしてそれはそれで面白かったが、高学年になるとひとりでは抜けられなくなり、ボールを回して展開してトライをとっていくことが面白くなりました。学校とは違う友達と話し、プレーすることにより、コミュニケーションの大切さもわかり、合宿で衣食住を共にすることで、短期間で大きく成長することができた気がします。ラグビーをやっていたおかげで体力もつき身体つきもよくなりました。次のプレーを考えることで頭もまわるようになりました。6年間お世話になったコーチやご父兄に感謝します。中学でも少しはラグビーを続けていきたいと思っています。

卒業

6年 川原 奨平

6年間ラグビーを続けてきて良かったことは仲間を大切にすることがわかったことだ。それは、合宿やきつい練習と一緒に乗り越える中でわかったことだ。試合では、フォワードとして素早くスイープに入り球をつなげることに心がけた。球をつなげれば仲間がトライをしてくれると思ったからだ。でも6年生の12月に腰を痛めてしまった。みんなの試合を見ていたらぼくも出たくなった。早く腰を治してまたラグビーをしたと思っている。

ぼくは6年間いろいろと教えてくれたコーチや、優しく応援してくれたお母さん達に感謝している。また、よい仲間に出会えて良かった。6年間ありがとうございました。

「卒業にあたり」

6年 井上謙亮(父)正敏

3年生の夏合宿直前に入校し、3年半やり遂げました。その中で、ラグビーは実際のプレーだけでなく、声を出すことも大切だということを知り、練習・試合中に大きな声を出している姿に成長を感じました。息子にとって麻生ラグビースクールでの経験は、今後の大きな力になると思います。今日までラグビーを続けて来られたのも、小作コーチをはじめとするコーチの皆様のご指導のおかげです。又、良いチームメイトに恵まれたからだに感謝しております。コーチの皆様、ご父兄の皆様、そして6年生のみなさん本当に有難うございました。

「卒業」

6年生 大坪勇太 母

引っ込み思案で気が弱く不器用な勇太がラグビーを始めて6年が経とうとしています。週1回、運動できれば良いかな。と軽い気持ちで始めさせたラグビーでしたが、想像以上に下手クソで、皆の勢いに押されて不甲斐ない息子を見るのも切なくて、練習見学もなんとなく主人に押しつけて逃げていました。でも、いつまでたっても上手にならないのに、ラグビー辞めたいとは絶対言わない息子を見ているうちに、私もちゃんと向き合えないと！！と思えるようになってきました。勇太の頑張りや、私のネガティブマインドを見事に覚えてくれました。そしてその辺りから、家族の結束が強くなったような気がします。ラグビーをしていたお陰で、勇太はどんどん逞しくなり、活発になって行きました。始めに苦しかった分、人の気持ちを察する様にもなりました。大人しいだけかと思っていたけど、意外にメチャクチャ負けず嫌いなんだ！！と言う発見もありました。主人は高校、大学とラグビーを頑張ってきた人です。大学時代のチームメイトとは未だに年1回全国各地から大学に集まりOB会をします。毎年参加する家族も増えて、その息子達がラグビーを始めて…ととても楽しそうで正直こんな友達居て羨ましいです。勇太もラグビーを通して、こんな友達を沢山つくってほしいなあ…。麻生の仲間ともこんな風に関係が続けば良いなあ…。私の願いの1つです。私が求めていた以上に、この6年間の麻生での経験は、勇太は勿論、私達両親も成長させてくれました。本当に麻生に入って良かった！本当に今までお世話になりました。6年間有難うございました。

「ありがとうございました！」

6年生 齋藤裕太の母

裕太は1年生の9月からラグビーを始めました。3年生まではダメダメな裕太に私は何度も「中途半端な気持ちでやるならやめなさい！」と言っていました。

4年生のときに持病が悪化、夏合宿直前には、普通に生活することも辛い状況でしたのに、鬼母の私は、「行けるなら行きなさい！」と皆様の迷惑もかえりみずに送り出しました。先日、制作中の卒業アルバムを

見て、胸が痛くなりました。写真には包帯をぐるぐる巻きにし、顔を真っ赤に腫らせた裕太がいました。

5年生のときは「ハーフ」を任された裕太はやっぱりダメダメで、でも彼なりに頑張っている姿を見ていた私は裕太に「ラグビー、やめようか…」と言ってしまいました。裕太は「やめないよ！」と即答。この年の夏合宿で菅平賞をいただきました。帰宅してきた裕太の顔を見て、涙を流しながら「裕太、おめでとう！」と言ったのですが、裕太は「うん…」とだけ返事しました。

6年生では再び「FW」を任された裕太。「ハーフ」を続けたいと言っていた裕太の気持ちを考えると少し残念でしたが、コーチの判断は正解でした！裕太はハーフのときとは信じられないくらい、ラグビーを楽しんでいました。

6年間、色々ありました。特に4年生のときは持病のことで辛い思いをした裕太でした。そんなときに、コーチ、ママたち、仲間の子供たちはいつも裕太のことを迎え入れてくれました。そして、今、裕太はラグビーを続けることを自分で決めました。

自分で選んだ未来です。母の手から離れ、自分の足でしっかり歩み始めた、そんな裕太に成長させてくれた「麻生ラグビースクール」には感謝の気持ちでいっぱいです！6年間、本当にありがとうございました！

「感謝の6年間」

6年生 菅原 健人の母 菅原 恵美子

きっかけは、兄のラグビー姿への憧れからでした。

小学校入学と共に本校へ入校。6年間、大変お世話になりました。

楽しくプレイした、低学年。

仲間との友情を育み、共に汗を流した中学年。

個々の役目をしっかり果たせるプレイヤーを目指し練習した高学年。

それぞれ恵まれた環境で、伸び伸びと活動させて頂きました。

そして、何よりも熱心にご指導下さったコーチの皆様へ感謝しております。

有難うございました。

また、チームメイトには本当に感謝。

DAGSへ進んでも、目標を持ち続け、頑張りたいと願っています。

「麻生RSIに感謝」

6年生 中司 大也 母

今、振り返ってみると、本当にあっという間の6年間でした。夏合宿、県大会、ファイナルと、子供たちからたくさんの勇気と感動をもらいました。自分を信じ、仲間を信じ、一つの事に一生懸命に取り組む姿勢は立派でした。気の合う友達と一緒に居ることが多かった子供たちも、だんだんみんなが一つになり、仲間同士居心地良さそうにしていた姿も印象に残っています。

三浦校長をはじめ、小作チーフコーチ、コーチの皆様、ご父兄の皆様、大変お世話になりました。有り難うございました。この素晴らしい仲間との日々を、そしてラグビーが楽しい、ラグビーが好きになった事を財産に、また新たな一歩をふみ出して欲しいと思います。

「感謝の気持ちを込めて」

6年生 萩原 睦 父

ARSの関係者全ての方に、御礼申し上げます。長男である睦がラグビーを続けてこられたのも、今後も“続けたい”と思えるようになったのも、全て皆様のおかげです。そして、合宿や試合など、私自身も楽しく過ごさせていただきました。ARSで培った『強い心』『大切な仲間』『感謝の気持ち』は、睦のこれからの人生にとってとても大きな糧となりました。今後も、ARSを応援します！また、自分も楽しみます！これからもよろしくお願いします。

「6年間続け通したこと」

6年生母 真山寿江

コーチの皆様、保護者の皆様大変に御世話になりました。巧也が6年間ラグビーで得たことは、勝つために練習をがんばったこと、夏合宿、たくさんの試合や県大会、食欲、そして麻生の20人のメンバーでいたこと。巧也は自分のペースで過ごすことが好きで、チームプレーのスポーツは好きではなかったかもしれませんが、それでも仲間にかける人間になって欲しいとハッパをかけてきました。6年間やり遂げたことはきっと本人の自信になると信じております。有難うございました。

「ラグビーというスポーツ」

6年生 宮澤 朋輝の父 宮澤 秀毅

朋輝が幼稚園の時に一緒だった鈴木彩香ちゃんのお母さんに麻生ラグビースクールの勧誘を受けなければ、正直ラグビーというスポーツには全く関わっていなかったでしょう。

私自身、高校の体育の授業で数時間だけしか、関わっていないし、テレビでも見る機会が少なかったです。今では、テレビの多チャンネル化で J Sports などに参加すれば、トップリーグや大学ラグビーなどが見られますが、地上波での放送はまだまだ少ないです。

練習に行くようになって、宮内コーチと一緒にやりましょうと声をかけられ、知らないうちにコーチになってしまったわけですが、今ではそれなりにルールも理解できるようになってきたと思っています。

朋輝にはいろいろな習い事をやらせてみましたが、6年生まで続いたのはラグビーだけでした。本人もラグビー以外のスポーツは今からでは追いつけないと思ったのか、DAGS へ行ってラグビーを続けると言っています。

小作チーフを始め、6年間ご指導いただいたコーチ陣に感謝です。

2019年には日本でラグビーのワールドカップが開催されます。

オリンピックでは7人制ラグビーが正式種目になりました。

これらをもっと知ってもらって、ラグビーというスポーツの楽しさを知ってもらいたい。

そうすれば、ラグビーをやらせたいって親も増えてくると思います。

「卒業にあたり思うこと」

6年横島拓朗 母 由紀

小学校入学とともに麻生RSに入校し、6年間あつという間でした。いよいよ最終の原稿を書く時期になったのかと思うと感慨深いです。保育園の卒園時に友達が皆サッカーに流れるところ、「ぼくはボールを持って走りたい」と言った一言で、私がラグビー好きだったこと、過去に甥が短期間お世話になったことだけの理由で麻生RSに入校し、観戦するだけを楽しんでいたラグビーが、自らプレーをする息子を応援するように変わり、グラウンドでの応援、母としての係など、次第に生活の中でラグビーが占める割合が大きくなっていきました。それもこれも「次代を背負う若者づくり」を掲げてスクールの運営にあたる三浦校長をはじめとした、幹部コーチの方々、6年間お世話になった小作チーフコーチ、学年コーチ、パパコーチ…すべての麻生RSに関わる方々に魅せられてのことでしょう。プレーをすることもだけでなく、親きょうだいまでもがラグビーを通して地域社会の活動の場で主体的に関わりをもたせていただきました。そして運動のスキルだけでなく仲間との協調性の発達、そして共同作業の達成の経験など、将来紳士として社会に通用するよう成長を支援していただきました。なかでも6年生での県大会2チームダブル優勝は、豊かな時代に生まれ育ち何不自由ない日常生活を過ごしていることもたちに、お金では買うことのできないチームワークと努力、達成感、自身、誇りなど様々な心の財産をいただき、忘れられない経験となりました。

これからも、地域のこどもたち(大人も含む)の成長や活動の支援をよろしく願います。ありがとうございました。

5年生

素晴らしい最高の学年をありがとう

5年チーフコーチ 曾我 浩

6年生のみなさん

5年生にとって、みなさんはいつも越えられない大きな壁でした。その大きさがあったからこそ、6年生からとれたトライのひとつひとつが、5年生にとって、価値あるものでした。

県大会で、2チームともに優勝し、ファイナルカップでも、観ている人たちを感動させるようなプレーができたことは、小学校の最終学年になるまで、全員ががんばってきた成果です。

5年生も、みなさんのような、大きな存在になれるように、がんばります。

みなさんのこれから進む道は、違うかもしれませんが、麻生RSで頑張ってきたことや、ツラカッタ出来事も、将来、「あのとき、ここまで頑張れたんだ」と心の中の「大きな自信」になると思います。

中学生になっても、楽しくラグビーを続けていってください。

6年コーチのみなさま

6年生で、試合の結果と、子どもたちの成長の両方を、与えられたことは、小作コーチをはじめ、6年コーチのみなさんの努力の賜物だと思います。

5年生にとって、6年生と一緒に練習すると、「痛いからいやだ」と敬遠しているときもありましたが、いつの間にかそのような声は聞かれなくなり、6年生のやっていることを、良いお手本にして練習に取り組みようになりました。

そして、「これが麻生の伝統なんだ」と痛感しました。

これからは、5年コーチがひとつになって、麻生RSの伝統を引き継いで、1年間取り組んでいきたいと思えます。

6年生のみなさん。修了おめでとうございます。

6年生諸君。小学校卒業おめでとう。

宮内 信也

王禅寺ふるさと公園では、ラグビー練習よりも虫取りに夢中になっていた君達の姿が、つい昨日のようです。

たくましく成長した今の姿は只々まぶしいばかりです。

これから中学・高校と進むにつれ、つらい事・苦しい事もあるでしょう。

そんな時は「菅平の夏合宿」を思い出してください。

あんなに大変な練習を耐えられた君達です。

どんな試練も必ず乗り越えられるはずです。

頑張ってください。

「もっと強くなりたい！」

5年 齋藤裕人

ぼくはうれしかった。こんなにすごい兄がいたなんて。それは裕太のことだ。

なぜかと言うと、裕太のオーバーは下からすくい上げるようにするから、裕太にオーバーされると倒れてしまう。

ぼくの兄だけじゃない。6年のパス回しは1回、1回速くてきれいだ。FW はかならずラックかオーバーに入っているし、バックスは正確なパスを出す。

6年がファイナルカップで北上戦に負けた時、見ているだけなのにぼくはすごくうれしかった。でも6年はもっとうれしかったと思うし、コーチもだと思う。

だから僕は今の仲間たちとともに強くなって、コーチを泣かせるくらい良いプレーをしたいと思った。

6年生に向けて

5年 齊藤 岳

6年生との練習はついていくのがきつかったけれど終わりには達成感がありました。

ファイナルカップでは6年生が最後の試合でとても頑張っている姿を見て、今の6年生みたいになりたいと思いました。

自分が6年生になったら、どんな時でもあきらめない気持ちを持って試合にのぞみたいです。
そのために練習の時から頑張りたいです。

6年生ありがとう

海老原翔空

六年生のみなさん、卒業おめでとうございます。

僕が東海大相模との練習に参加した時に アドバイスを沢山してくれてありがとうございます。とても嬉しかったです。これからのラグビーでいかしていきたいです。

土曜日の練習では、一緒に練習できて嬉しかったです。声を掛けてくれた事が嬉しいです。

いままで、ありがとうございました。

中学校に行っても何事にも、諦めず頑張ってください。

6年生との思い出

5年生 森田恵一朗

ぼくにとっての6年生との一番の思い出は二つある。一つ目は夏合宿。たくさんわらい、たくさん練習し、たくさん遊んだ。ラグビーの行事の中で一番楽しかった。

二つ目は6年生との試合だ。1、2年生のころはあまり差がなかったがだんだん差が広がり、今では完敗してしまうほど技術と力の差がある。一点とれることもあるが、良い形でトライはいまだまだない。6年生はすごいと感心させられる。

今まで色々なこん難や楽しいことがあったと思う。中学生になってもがんばってください。麻生はぼくたちがひっぱっていくので、中学生になってもラグビーをがんばってください。

「尊敬する先輩へ贈る言葉」

古田 空

六年生の皆さんご卒業おめでとうございます。ある時には僕たちの練習相手になってくださったたり、またある時には僕たちが試合で負けた時になぐさめてくださったたり、本当にお世話になりました。そんな6年生が卒業するのはとても悲しいです。

まだ、6年生とのプレーの差は激しいけれどその差を埋められるように日々努力し、また、最上級生としての自覚を胸に練習に臨みたいと思います。本当に今までありがとうございました。

「卒業する6年生のみなさんへ」

5年生 津国大喬

6年生はタックルもオーバーも強くて、練習をいっぱいしたけど止めることがなかなかできませんでした。

合宿で行った試合でも、結局倒せなかったのがよかったです。

僕もそんな6年生になれるようがんばります。

卒業おめでとうございます。

6年生の目標

小野 航大

6年生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。みなさんを目標に、来年のぼくの目標を作りました。

1. SOを、早く自分のものにし、活躍する。
2. みんなに聞こえるような大きな声をだす。
3. 400Mを、1分10秒以内を目標にがんばる。
4. 県大会、優勝するぞ。

記録

6年 ファイナルカップ

月日:2月16日(土)

場所:保土ヶ谷G

リーグ戦 Eグループ

麻生 ○73-0● 秦野

麻生 ○84-5● 福島県合同

月日:2月17日(日)

カップ戦 トーナメント

1回戦 麻生 ●7-28○ 北上

交流戦 麻生 ○42-14● 鎌倉

5年 多摩市民大会

1月27日(日)

麻生 ○50-5● 昭島

麻生 ●30-50○ 多摩

藤沢 RS 交流大会

月日 : 3 月 10 日(日)

場所 : 藤沢市秋葉台 G

[幼稚園年中]

麻生 ●20-30○ 藤沢

麻生 △20-20△ 藤沢

[幼稚園年長]

麻生と藤沢の合同練習

[1 年生]

麻生 ○40-5● 藤沢

[2 年生](初めての 7 人制)

麻生 ○30-12● 藤沢

麻生 ●15-41○ 藤沢

[3 年生]

麻生 ○56- 7● 藤沢

麻生 ○42-14● 藤沢

[4 年生](8 分×3 本)

麻生 ○30-10● 藤沢

麻生 ●20-25○ 藤沢

[5 年生]

麻生 ●21-56○ 藤沢

麻生 ● 7-33○ 藤沢

(8 分×3 本)

[6 年生]

麻生 ●0-112○ 藤沢

麻生 ●12-28○ 藤沢

大和 RS 交流大会

月日 : 3 月 17 日(日)

場所 : 日大稲城G

[幼稚園年中]

麻生 ●20-55○ 大和

麻生 ● 5-55○ 大和

[幼稚園年長]

麻生 ● 5-35○ 大和

麻生 ●15-55○ 大和

[1 年生]

麻生 A ●20-45○ 大和 A

麻生 ○40-30● 大和

麻生 B △30-30△ 大和 B

[2 年生]

麻生 AB ○30-25● 大和 AB

麻生 A ● 0-66○ 藤沢 B

麻生 B ●22-28○ 大和 B

[3 年生]

麻生 A ○35-30● 大和 A

麻生 B ○40-10● 大和 B

[4 年生]

麻生 A ○15-10● 藤沢 A

麻生 B △15-15△ 大和 B

麻生 AB ○55- 5● 大和 AB

[5 年生]

麻生 ○45- 5● 大和

[6 年生]

麻生 A ○25-15● 大和 A

麻生 B ○60- 0● 大和 B

編集後記

毎年のことではありますが、改めて6年生が大化けしました。今年は、県大会に2チーム出場して、ともに全勝優勝。さらにファイナルカップでの善戦という好結果。しかしなんといっても、最終学年の夏合宿以後の全員の大変身がすばらしい。人はこれほどまで変われるということが20人全員で示してくれたことがなんといっても大きい。卒業おめでとう。(編集長 毛利)

卒業する子供たち飛躍あるのみ(DAGS 小松)

ご卒業おめでとうございます。麻生RSで得たものがたくさん詰まった文集ができました。(6年 宇田)

麻生リトルラグーメン NO. 95

発行日／平成25年3月24日

発行者／三浦 幸宏(042-331-6548)

編集長／毛利昌康(044-987-9063):E-メールアドレス masayasu@delight-net.com

副編集長／野田卓人

編集委員／小松正巳・宇田洗希・菅原司・清水翔太・木下義之・津国秀一・原田泰一・吉田大輔

表紙題字:元全日本監督 日比野弘氏 ホームページ <http://asaors.com/>